

ニュースレター ぶどうの木



第23号

2024年7月



「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。
人がわたしにつながっており、
わたしもその人につながっていれば、
その人は豊かに実を結ぶ。」
(ヨハネ福音書15章5節)

学校法人「藤学園」は、今年度から学校法人「天使学園」と合併して、法人名を「藤天使学園」と変更しました。

「藤」も「天使」もカトリック精神に基づいて設置され、運営されてきました。これは今後も変わりありません。いえ、むしろ、そのカトリック的な基盤を堅固にするための法人合併であったと言えます。

去る6月1日に、法人統合記念式典を学園講堂において開催いたしました。両学園の教職員関係者、また関係する官庁関係者、カトリック大学連盟関係の方々、私立大学協会北海道支部の方々など、北海道内外から多くの方々が参加してくださり、私たちの新たな出発を祝福してくださいました。

式典はカトリックの祈りの形式を用いて行われ、藤女子中学校・高等学校の合唱部による聖歌、聖書朗読、勝谷太治司教様によるおことば、続いて各設置校代表による共同祈願があり、その後、藤女子高等学校教師によるグノーのアヴェ・マリアの独唱がありました。それに続いて、理事長永田淑子による式辞、修道会管区長マリア・テレジタ・ゴールドベック、私立大学協会北海道支部長である苦米地司様のお祝辞がありました。

続いて祝電披露、その後、派遣の祈りがあり、今後の私たちの歩みについて、使命を新たに自覚いたしました。その後、学校法人としての存在に終わりを告げた「天使学園」の最後の理事長を務めておられた松岡健一先生からの謝辞があり、最後に派遣の祝福が勝谷司教様から皆様に与えられました。

式典の最後には、再び合唱部の生徒たちによる聖歌「ごらんよ 空の鳥」で終わりました。人数は6人だけの合唱部でしたが、生徒たちの澄んだ清い歌声は、参加された皆様の心に深く印象づけられたようでした。

二つのカトリック学園が一つの学園に統合されて、建学の精神はどうなったのか？と心配なさる方もいらっしゃるかもしれませんが、この藤も天使も創立時からイエス・キリストの教えられた愛の精神を伝えることを使命としていましたので、この二つがひとつになることに問題はありませんでした。

そして、統合後の藤天使学園の建学の精神は、天使学園が創立以来大切にしてきた「愛をとおして真理へ」という短いフレーズで表すことに決めました。すべての根源である愛をとおして、真理そのものである神にいたる道を歩んで行きます。

藤天使学園はカトリック精神に基づいて、
神によって与えられた一人 ひとりのいのちの尊厳を大切にすることを基盤とします。

神から愛されている存在として自分を受け入れ、
自分に刻まれた良心に従って正しく生き、
周りの人への愛に努め、
さらに世界の人々の平和と幸せのために尽くす心を育てます。
私たちは、具体的で身近な愛の実践をとおして、
より高い真理に到達することを目指します。

律法の専門家、イエスを試そうとして尋ねた。

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」

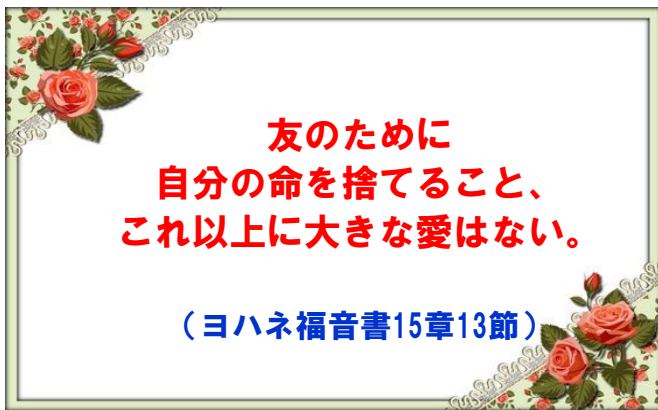
イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』

これが最も重要な第一の掟である。

第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』

律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

(マタイ福音書22章36～40節)



新入生の皆さんは入学以来3か月が過ぎ、大学生活にも慣れてきたことと思います。

上級学年の皆さんも、それぞれ人生において二度と来ないような時、自分のしたいことに没頭できる時間をすごしておられることでしょう。

本学はカトリックの女子大学として、建学の精神に「愛をとおして真理へ」を掲げています。

イエス・キリストが身をもって示してくださった愛の教え、愛の生き方、愛の掟を、本学で皆さんも少しずつ学んでこられたことと思います。イエスの教えてくださった愛の掟は、どのようなことなのでしょう。

最近、非常に心を打たれたことがあります。中国の江蘇州蘇州市内のできごとです。

去る6月24日に蘇州市内のバス停で、日本人学校のスクールバスが停車するバス停で、一人の中国人男性が日本人親子を襲い、バス内に入ろうとしました。子どもたちの案内係を担当していた中国人女性、胡友平さん（54歳）は、彼がバス内に入ろうとしたところを阻止しようとして、刃物で何度も刺されたのです。

襲われた日本人親子は軽傷で済みましたが、胡さんは重体で病院に運ばれました。数日後に彼女は病院で帰国となりました。

彼女のこの行動がなければ、犯人はバスの中に入り込み、多くの子どもたちが犠牲になった可能性が高いのです。彼女は自分の命の危険を知らながら、身を挺して日本人の子どもたちを守ろうと全力で闘ったのです。

中国のメディアは当初、この事件を報道していませんでしたが、胡さんが亡くなったことが日本で報道され、それを通じて中国でも報道されることになり、両国のSNSで深い哀しみと感謝の言葉が溢れたとのこと。日本側からの大きな感謝を受けて、中国政府当局も胡さんの行動をたたえたと報道されています。

隣り合う二つの国で、一人の女性のとった行動が両方の国民を感動させ、心が一つに結ばれたのです。近年、両国の関係はそれほど好ましい状況ではありませんでしたが、一人の無私な愛が、厚く固い政治の壁に小さくとも穴をあけたのです。

今月、この蘇州市の大学から16名の男女学生たちが本学に、「日本語研修」の短期留学生として来学します。皆さんは、この学生たちを心から温かく迎えてください。胡さんへの心からの感謝を込めて。



Pope Francis_@Pontifex

教皇フランシスコのX (Twitter)より

Let us pray for all the populations wounded and threatened by fighting, that God may free them and support them in the struggle for peace. May all the prisoners of this war soon return home!

I invite you to "Hope and Act with Creation" in view of the upcoming World Day of Prayer for the Care of Creation. May our lives become an opportunity to sing our love for God and care for our common home.



- ◇ 4月から本学に新しい学長が誕生しました。渡邊頼純学長です。
- ◇ 渡邊学長先生は、毎朝北16条校舎の入口前に立って、一講目に駆け付ける学生たちを温かいまなざしで出迎え、「お早うございます」と元気に声をかけてくださいます。多くの学生がこの挨拶に迎えられたことでしょう。
- ◇ 渡邊学長は国際派であり、行動派であり、アイディアマンであり、次々に本学を元気にするために動いています。（S r. 永田）